

# インド、予想を上回る経済成長率 2018年1-3月期は7.7%増に加速

情報提供資料 2018年6月1日

インド政府が発表した2018年1-3月期の実質国内総生産（GDP）成長率は前年同期比で7.7%増となりました。高額紙幣の刷新や物品・サービス税（GST）導入などの痛みを伴う改革を乗り越え、経済は順調に回復しています。

## 2018年1-3月期のGDP成長率は+7.7%と高水準

- 5月31日に発表された2018年1-3月期実質GDP成長率は+7.7%（前年同期比、以下同じ）となり、市場の事前予想である+7.4%を大きく上回りました。前四半期（2017年10-12月期）の成長率が速報値の+7.2%から+7.0%に下方修正されましたが、経済成長は前期より更なる加速を示しています。成長率は2017年4-6月期を底に、2016年11月の高額紙幣廃止直前の高水準まで回復しました。

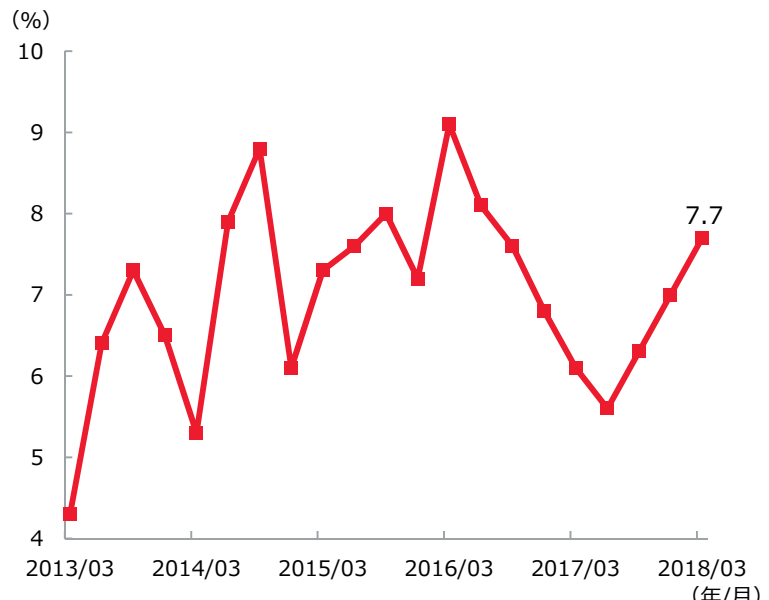
## 消費と投資が経済成長をけん引

- 需要項目別では、輸出の伸びの鈍化が目立ったものの、それ以外の項目は全般的に回復を示し、特に政府消費と総固定資本形成（政府・民間の設備投資や建設投資）が大幅に伸び、高成長をけん引しました。投資はGDPの3割強を占めています。
- 設備稼働率は回復の途上ですが、今年のモンスーン期（6月～9月頃）の雨量は平年並みと予想されており、需要の拡大とともに稼働率が上昇してくれば、設備投資がさらに増加する好循環につながると期待されます。

## 来週（6月5,6日）の金融政策決定会合に注目

- 前回（4月5日）の金融政策決定会合の議事録ではインド準備銀行（中央銀行、RBI）のややタカ派的な姿勢が示されました。4月の消費者物価指数（CPI）が前年同月比で+4.58%と3月の同+4.28%から上昇していることもあり、来週に予定されている金融政策決定会合に注目が集まっています。
- 今回のGDPの発表で景気が良好な回復傾向を辿っていることが示されたことから、RBIがこれまで中立としてきた姿勢を引き締め方向に転換するかどうか注目がされています。

## インドの実質GDP成長率（四半期、前年同期比）の推移 （2013年1-3月期～2018年1-3月期）



出所：Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

## インドの実質GDP成長率（前年同期比）

		2017年 10-12月期	2018年 1-3月期
<b>実質GDP成長率</b>		<b>7.0%*</b>	<b>7.7%</b>
需要項目別	個人消費	5.9%	6.7%
	政府消費	6.8%	16.8%
	総固定資本形成	9.1%	14.4%
	在庫増減	7.2%	7.8%
	輸出	6.2%	3.6%
	輸入	10.5%	10.9%

\*下方修正後

出所：インド中央統計局のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。